

青葉区明るい選挙推進作文コンクール

2022 入賞作品集



ぼく、「えら坊」!

平成9年12月25日生まれの青葉区の選挙マスコットキャラクター! 区民の皆様からご応募いただいた519点のデザインの中から選ばれたんだ♪

青葉区民まつりなど各種イベントで、不正のない明るい選挙の推進や投票率の向上の呼びかけをしているよ。



☆明るい選挙推進協議会とは

- ① 不正のないきれいな選挙(寄附の禁止)
 - ② 投票総参加の推進
- を大きな柱として活動をしている団体で、全国の都道府県・市区町村に設置されています。

☆青葉区明るい選挙推進協議会とは

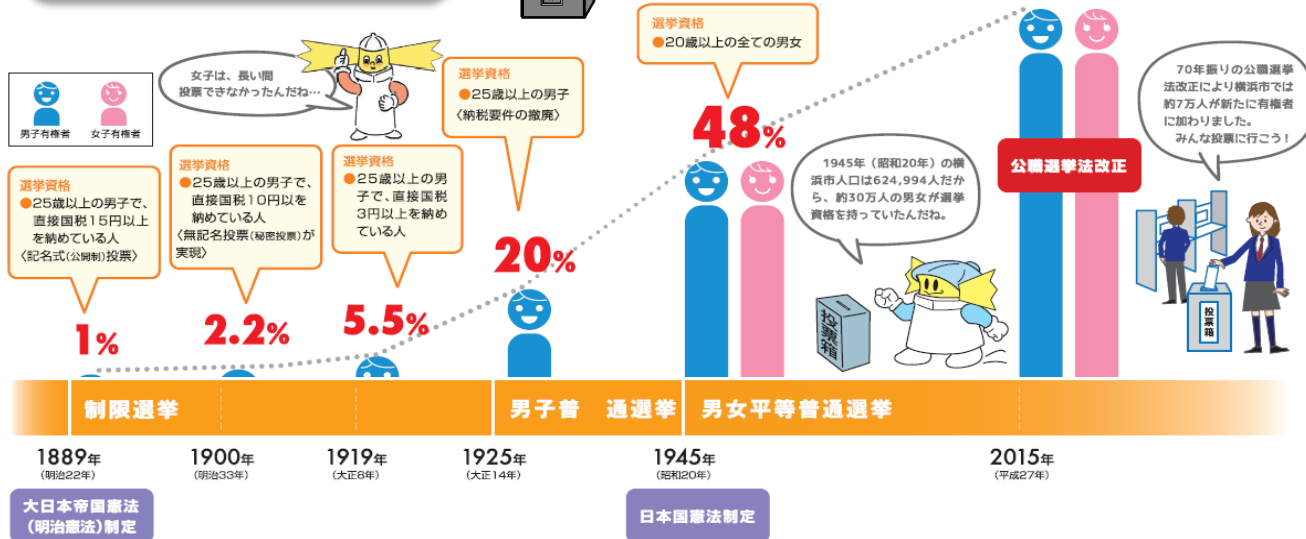
自治会・町内会等から推薦された推進委員14名と推進員112名により構成され、選挙時の街頭啓発などの活動を行っています。



選挙に関するマメ知識

選挙権の歴史だよ。

当初は、人口の約1%しか投票できなかったんだね。



「選挙の3原則」



- 1 普通選挙
選挙権は、一定の年齢に達したすべての国民に与えられる
- 2 平等選挙
選挙人一人に一票。性別・財産・学歴などでの差別はない
- 3 秘密投票
誰が誰に投票したかが、わからないような方法で選挙がおこなわれる

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二二を終えて



青葉区明るい選挙推進作文コンクールは今回で第六回目の実施となりました。今回は前回の応募数をはるかに上回る二六一作品の応募がありました。日ごろから多くの生徒様が「政治」に興味、関心を抱いていることが窺えました。特に七月十日に参議院議員通常選挙が執行されたこともあり、より身近に「選挙」、「政治」を感じたことでしょう。この度、青葉区明るい選挙推進協議会推進員、区内小学校校長・副校長三名、青葉区選挙管理委員会委員長、青葉区長の皆様の協力のもと、一つ一つの作品を審査させていただきました。審査基準は次の通りです。

- 一 横浜や青葉区、地域に対する思いが感じられること。
- 二 選挙や政治・社会の仕組みについて正しく理解していること。
- 三 時事問題について興味を示し、適切に取り入れていること。
- 四 知識、事実を並べるだけでなく、独自の発想、意見が述べられていること。
- 五 文脈がしっかりしていて、論理が一貫していること。

結果、「青葉区明るい選挙推進協議会会長賞」、「青葉区選挙管理委員会委員長賞」、「青葉区長賞」が各一名、「えら坊賞（佳作）」七名の計十名の入賞を決定いたしました。

どの作品も、各々が疑問に思ったことを調べ、まとめて、自分の意見として作文しており、未来の有権者としての熱い思いがこめられていました。ほかにも、他国の事例を参考にして日本の現状を分析する作品や、選挙の本質について言及する作品など、どの作品にも大変感銘を受けました。

来年四月には統一地方選挙が執行されます。私たちも、この熱い思いを絶やさぬよう今後も選挙啓発に尽力させていただきます。

ご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二二審査員長
青葉区明るい選挙推進協議会会長

奥田 妙子

目次

― 青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞 ―

私達の未来は私達の手で

山内中学校

三年 卷嶋 沙來

・
・
・
1

― 青葉区選挙管理委員会 委員長賞 ―

動けば変わる

鴨志田中学校

三年 我妻 椿

・
・
・
3

― 青葉区長賞 ―

投票率から知る社会

もえぎ野中学校

一年 高田 理央

・
・
・
5

― 佳作 えら坊賞 ―

僕が行きたい投票

美しが丘中学校

三年 中村 響人

・
・
・
7

選挙に行くきっかけ

あざみ野中学校

三年 小堀 充奈

・
・
・
8

選挙でよりよい日本へ

山内中学校

一年 山本 結衣

・
・
・
9

投票率を上げるために

〜選挙の現状〜

もえぎ野中学校

三年 浦野 真樹

・
・
・
10

選挙で伝える私の願い

もえぎ野中学校

二年 平井 碧

・
・
・
11

投票率をみんなで上げる

もえぎ野中学校

一年 馬原 陽翔

・
・
・
12

選挙の問題点

もえぎ野中学校

一年 高野 玄樹

・
・
・
13

青葉区明るい選挙推進協議会会長賞

私達の未来は私達の手で

山内中学校 三年 巻嶋 沙來

今年七月、参議院選挙が行われた。選挙前には、選挙カーから候補者の声が聞こえてきたり、全国のニュースでは、「民主主義」という言葉を何度も耳にした。選挙も民主主義の意味も私の頭の中で漠然としていたが、今回作文を書くにあたって、改めて考えてみようと思った。

私の持っている参考書から「民主主義」の意味を調べると、国があり方を決める権利は国民が持っている、また、選挙によって国民の意見が反映されると書かれていた。選挙が正しく行われて民主主義が成り立つのだとわかった。私は、一部の権力者が支配する国ではなく、民主主義で良かったと思う。民主主義を守り続けていくためにも、私たちは代表を決めることをしっかりと考え、選挙権を持つなら投票に行くべきだと思った。

だが、日本は選挙と言えば若者の投票率の低さが問題視されている。実際、今回の参議院選挙での投票率は全体で五二・〇パーセント、十代は三四・四九パーセントと十代の有権者の半数以上は投票していないことになる。大事な選挙権を放棄している人が多いが、この現状を変える対策はないだろうか。

以前、ノルウェーの選挙についてテレビで観たことを思い出した。ノルウェーでは選挙が近づく、選挙小屋やスタンドが並び、そこへ老若男女が訪れ、候補者と気軽に話をしていった。特に印象的だったのは、小学生たちが「ノルウェーの石油問題についてどう思いますか。」等と質問し、皆それぞれ意見を持っていることだった。さらに、候補者も相手を子ども扱いせず、しっかり意見を述べていた。相手の意見を真剣に聞き、それを否定せずに議論し、自分の意見を深めていくやり取りに感心した。ノルウェーの選挙を見て、自分達

が参加しないと自分達の未来はないのだ、という考え方を小さい頃から身につけることが大事だと思った。日本の小学校も参考にしてみてはどうだろうか。まずは、身近な自分達の住む横浜市について、より暮らしやすい場所にするにはどうしたらいいか、じっくり考えることから始めてみるのもいいと思う。具体的に自分で考えると同じ意見の候補者がいるだろうか、という関心に繋がるかもしれない。

また、高校ではその対策の一つとも言える「公共」という科目が今年度から始まった。世の中の出来事、問題について討論したり、実際の選挙をイメージするため、模擬投票を実施したりすることもある様だ。これらによって、自ら投票するという意志が強まることにつながるだろう。

単に投票率が上がればいいというわけではない。選挙権を持つまでにしっかりと準備をし、政治を自分事として考えることに重きを置くべきだと思う。

私自身は選挙権を得るまであと三年程だ。国の流れに何となく身を任せて生きていくのではなく、自分が投票という形で参加し、明るい未来を望みたいと思う。

〈講評〉

参議院選挙前のニュースから何度も耳にした言葉「民主主義」について改めて理解し、主権者として自覚をもって投票することへの意義を投げかけています。ノルウェーの選挙前の取り組みに視野を広げ、自分たちの未来のために小さい頃から選挙に関する教育の重要性を訴え、また、身近な暮らしの課題から政治意識への向上に関心をつなげたところは説得力があります。そして、選挙権を持つまでにしっかりと学んで明るい未来に臨んでいこうとする姿勢に力強い決意を感じた作品です。

動けば変わる

鴨志田中学校 三年 我妻 椿

「私だったら誰に投票するかな・・・。」

私は今年、初めて選挙会場へ行った。外の候補者ポスターの前で親を待ちながら、ぼんやりと自分が投票するイメージをしていた。

投票する人はどのように選ぶのだろう。ポスターは抽象的な言葉が多く、真剣に選ぶには情報が足りない気がする。今、日本が抱えている一番の問題は何だろう。そもそも投票すれば本当に国はより良くなるのだろうか。

考えれば考えるほど自分がいかに政治について知らないかが分かった。きつと私のように政治に詳しくない若者が投票に自信を持てず、だんだん選挙への興味を無くしてしまっているのだろうか。でも、知識さえあれば投票するようになるのだろうか。

私は若者の政治参加について色々調べた。投票率が八割を下回ったことがないデンマークは、特に若者の政治への関心が高い。デンマークの若者になぜ政治参加をするのかを聞くと、「動けば変わるから。」と返ってくる。投票することは自分たちの生活にプラスになるという考え方が浸透しているのだ。対して、七月に行われた日本の参議院選挙の投票率は五二・〇五パーセント。投票に行かなかった若者はその理由に、「どうせ変わらないから。」と話していた。実際に私の周りの大人も、投票には行ったが「結局前と同じだろう。」と言っていた覚えがある。確かに選挙は社会をより良くするための大切な機会だ。私たちは変化を求めている。投票率が低いのは日本政府が変わらないせいなのか。

それは違う。デンマークの人々の考え方を言い換えれば、「動かなければ変わらない。」。私たちは今の生活に不満や意見を少なからず持っていて、政府に改善を求めている。ただ、行動する前から「ど

うせ」と諦めているだけだ。まずは、自分が感じる生きづらさの改善に一番つながりそうな人に投票する。はじめは知識よりも自分の考えを持つことが必要だ。そして、投票という行動を起こすことで社会は徐々に変わっていくだろう。だが、「たかが自分の一票で変わるわけではない。」と思う人もいるだろう。しかし、十人がそう思ったら十票、百人だったら百票だ。みんな平等に一票持っているからこそ、始めから諦める考えは広まってほしくないと思う。一票一票の積み重ねが選挙の結果だ。社会を変えたいと思うなら、その思いを一票という形にしよう。

私はまだ有権者ではない。でも私ももっと行動に移すべきだと反省した。学校は小さな社会のようで、「こうなったらいいな。」と思う場面はたくさんあるが、私も思うだけで終わっていた。いきなり大人に話す勇氣はないけれど、友達なら話せるから、意見を共有したり別の案に気づいたりできるはずだ。今の私にもできることはある。だから三年後までに、考えたら行動してみる事を身につけたい。自分たちが生きやすい未来は自分たちにかつぐれないから。

〈講評〉

作文を書くにあたり、表面的に選挙という制度について捉えるのではなく、ご自身の力で調べ、着眼点を見つけ、掘り下げて考察されています。選挙という制度そのものについても思いを馳せ、投票権を持つとはどういうことなのか、根本的な意義について真摯に考えています。また、現時点で自分に何ができるのか具体的に考えており、ぜひご自身の出来ることから実践に移して頂きたいと強く思われる作品でした。

投票率から知る社会

もえぎ野中学校 一年 高田 理央

今年の七月にあつた参議院議員選挙で、母の友人が市ヶ尾の駅前でチラシを配っているのを見かけた。一生懸命な姿に少し驚き、自宅に帰ってそのことについて母に聞いてみた。「○○ちゃんは△△党を応援しているんだよ。」とのことだった。母にも応援している政党があるのか聞いてみたら、今は特にないと返事だった。しかし選挙の応援でウグイス嬢をしたことがあり、議員事務所が主催する「国会探訪」に行き、その時はそれらの議員さんの政党を応援していたようだ。母は政治には興味があるようで、夕飯時が午後七時にかかるのと、いつも「ニュース、ニュース！」とテレビのチャンネルを変えさせられる。私はまだ政治がよく分からないが、今年の七月の参議院選挙で投票率という言葉がなぜだか頭に残ったので、それについて調べようと思った。

まず、投票率とは何か、ブリタニカ国際大百科辞典からの解説によると以下のように言っている。「選挙において何%の有権者が投票したかを示す指標。実際に投票した者の総数を有権者全体の数で割って百を掛けたもの。国民の政治参加の程度を示すものであり、投票率が国民の選挙への関心度を示す。ただし選挙への関心とは別に、天気の良い日は投票率が高いように、他の要因にも左右される。また、オーストラリアのような義務投票制の国では当然投票率は高く（約九〇%）なり、自ら登録しないと投票できないアメリカでは約五十五%と低くなる。日本は任意投票制で、約七十%となっている。」難しい言葉が並んでいるので、母に簡単に解説をしてもらった。選挙権のある満十八歳以上の人が、政治を行う議員、市長、知事、国会議員などを選ぶために選挙に行き、選挙権を持つ人の中でどのくらいの割合の人が選挙に行ったか、それが投票率で分かり、国民の

選挙、つまり政治への関心度が分かるとのことだった。しかし、天気や他の要因でも左右されるとは、びっくりだ。他の要因というのが、例えば選挙前の予期せぬ事件、事故もそうだと聞き、安倍元首相が銃に撃たれて亡くなったことを思い出した。

投票率は高い方が良くて、低いと良くない、政治に興味がない人が多い、こういうことなんだと思った。それはどうしてなのか、政治に興味を持たないといけないのか、それすらまだ分からない。また母が口をはさんできた、「平和ボケ！」ロシアのウクライナ侵攻は他人事ではない。海外から侵略される。百年後は日本人がいなくなってしまうとか。大げさに感じ、少し怖くなった。選挙、投票率、政治。これから中学、高校で学んでいくのが待ちきれなくなった。

最後に、令和四年参議院選挙の青葉区の投票率は、神奈川県五十八の開票区のうちなんと第九位、五十八%だった。県内では上位のほうだったのでうれしくなった。私も十八歳になったら積極的に選挙行つて社会に貢献し、選挙の大切さを広めたいと思う。

〈講評〉

参議院選挙時に青葉区内の身近な場所での知人の政治活動から家族とのやり取りで疑問を掘り下げ、論理的で身近に感じられる作文でした。外国の選挙の状況もしっかりと調べ、本質的な面と周辺状況による影響、さらには地元である青葉区の状況を幅広く述べられています。これから選挙権を持つまでの間、政治や選挙のことを学び、さらには身近で起こった疑問に目を向け、どんな社会であってほしいか考え、自ら行動する力を身につけていってほしいです。

僕が行きたい投票

美しが丘中学校 三年 中村 響人

投票に行こう。僕は十八歳になって選挙権を持ったら、必ず投票に行こうと決めている。投票することで、自分の考えを社会に伝えることができる。これは貴重な機会だからだ。

でも、僕が「選挙」に対して持っているイメージは最近悪くなった。

第一に、選挙になると普段の生活に制約が発生することだ。例えば、住宅街にもかかわらず選挙カーから大きな音で候補者の名前を連呼している。「日本を良くしたい」「国民のために尽くしたい」などという割には、まったく逆のことをやっている。僕はそういう候補者を応援したいとは思わない。

第二に、候補者に魅力を感じないことだ。政治には関係ないことを延々と語る候補、非常識なことをやって注目を集めたいだけの候補など、社会や政治に対して真面目に取り組もうとしている姿を少しも想像できない候補が何人もいると、選挙というパフォーマンス目的の騒がしいイベントになってしまう。

第三に、有権者にとって投票することあまり価値を見出せないことだ。多くの投票所では車での来場を制限していること、そしてバリアフリー化が十分に進んでいないことも有権者が投票に行かない理由になっていると思う。また、投票をしても、有権者の声は政治の現場に届かないのではないかなどと考えると、投票の意欲をなくしてしまう。

選挙活動や投票が有権者に負担がないようにすれば、選挙への関心が高まり、有権者の声も政治に反映されやすくなると思う。良い候補者をしっかりと選んでますます良い社会になってほしい。

有権者に負担がないアイデアを考えてみた。まず選挙の主体をインターネットにする。総務省によると、インターネットの利用率は九割を超えており、ほぼすべての有権者に情報が届く。また、有権者は候補者の主張を何度でも確認できる。選挙活動を工夫するだけで、有権者の生活に与える不便や制約を大幅に減らすことができる。

二つ目に、有権者の声をよく反映してくれる議員の見極めがよくできるようにしてほしい。候補者全員による討論会を選挙管理委員会が毎日のように開催してインターネットで公開すれば、有権者は候補者の考えの違いだけでなく、態度や人柄といった細かいところまで比較できる。そして、どの候補者に投票するのがよいか判断材料になる。

投票所の雰囲気づくりも重要だと思う。明るくバリアフリーの施設でもあれば幅広い有権者が来場すると思う。また、大型商業施設などでも投票できるようにしてほしい。さらに、インターネットでも投票できるようにすれば、投票に行くという行為そのものがなくなるので、投票率が上がるはずだ。

また、有権者が選挙で投票が面倒なもののようなイメージを持たれないために、選挙管理委員会による働きかけも重要だと思う。

選挙に行くきっかけ

あざみ野中学校 三年 小堀 充奈

この夏、七月十日に参議院選挙が行われた。翌日、共同通信が集計した選挙の投票率をみたところ、五十二・〇五パーセントとあり過去四番目の低さと書いてあった。選挙権のある国民の約半分は選挙に行かなかったことになる。何故だろう。私は選挙に一度も行ったことがないという従姉に話を聞いてみた。従姉は年齢が二十代後半で、選挙の投票率が低い年代と言われている。

従姉が選挙に行かない理由は、いつ何の選挙が行われているか分からないし、この選挙で選ばれた人がどのように活躍するのかといったイメージも沸かないからだと言っていた。選挙や国の今後についての関心はあるが、折角の休日に選挙に行くことが面倒に感じる。何か直接得られる分かりやすいメリットがあるなら行くかもしれないと言っていた。

従姉が選挙に行かない理由をまとめてみた。一、選挙のことが良く分からない。二、当選者の活躍が見えない。三、行くことが面倒。四、メリットがない。

従姉が選挙に参加しようと思うには何が必要なのだろう。一と二について情報の可視化が必要なのではないかと思う。従姉やその友人はあまりテレビを見ない人が多い。そこでインターネットやSNSを利用した選挙全体のPRをすることが必要だと考えた。また、三の行くのが面倒と感じる人は他にもいると思うし、様々な理由から会場に行くことが難しい人たちも沢山いるだろう。だからインターネットで投票ができるようになれば、投票する人が増えると思う。最後に四のメリットがないという部分だが、本当にメリットがないのか調べてみた。するとノジマというお店で選挙割という言葉を見つけた。選挙割とは投票に行った後、投票済証明書や投票所の看板等と撮った写真がクーポンの代わりになり、選挙割に参加しているお店でお得なサービスが受けられるものだそう。私が住んでいる街でも選挙割に参加しているお店があるし、サービスは選挙に行った地域関係なく全国で二週間受けられるそう。この選挙割を従姉に教えたところ、とても興味を持ってくれた。

この選挙割は、若者が選挙に行くきっかけを作りたいと始められたそうで、現在ではドイツ、イギリス、ルーマニアにも進出しているそう。こういった活動があることを知って行動を起こすことは素晴らしいなと思った。そして活動が広がっていくことや、ほかにも選挙に行く人が増えるような環境が整っていくと良いなと思う。まずは、従姉が選挙に行くきっかけになればいいと思った。

みなさんは今、選挙に対して、投票所に対して、どのようなイメージを持っていますか。「国民の義務」「面倒くさい」「よく分からない」という人もいるかもしれません。私は三つ目の「よく分からない」と七月までは思っていました。しかし、七月十日に参議院選挙が行われたことや中学生になったことをきっかけに、父と母になぜ仕事が忙しくても毎回選挙へ行くのかを聞いてみました。父は、「日本をよりよくしてくれる人や、よりよい国の運営をしてくれる人を選ぶため。」母は、「義務であり責任だから。それに、候補者のことを調べて投票することで、少しでも世の中の意見が反映されると信じたいから。」と答えてくれました。

確かに父の言った、日本をよりよくしてくれる人を選ぶのは大切なことです。しかし、“すべての国民”によりよい日本をつくる人を選ぶためには、二十代の若者の低い投票率をあげなければならぬと思います。今からそのための提案を二つします。

一つ目は候補者がSNSでも選挙活動を行うことです。なぜなら、選挙に行かない若者の理由を調べると「候補者の人物像がよく分からないから」ということが意外と多かったからです。私自身も振り返ってみると、候補者を知ることができないのはポスターと街頭演説だけです。しかし、ポスターは載っている情報が少なく、街頭演説は時間が長いので全て聴くことができません。ではSNSはどうでしょう。SNSで選挙活動を行う事ができれば、通勤・通学中のバスや電車の中で候補者の主張などを知ることができます。また多くの情報を知る事や、有権者が候補者に対して簡単に質問をする事もできます。

二つ目は投票所に来た人に景品を渡すことです。なぜなら、選挙は堅苦しいというイメージの若者も多いのではないかと思っただからです。実際、投票所はしんと静まりかえっています。その雰囲気は敬遠する人もいるのではないのでしょうか。ちなみに選挙の投票率九十パーセント以上が当たり前のオーストラリアでは、選挙の日には必ず土曜日で、投票所はお祭りのように屋台などが出て、明るい雰囲気だそうです。私はこの事も高い投票率につながっていると思います。そのため、このような事を日本の投票所に取り入れるのも良いと思いました。また、渡す景品はその地域の特産物を使った飲食物が良いのではないかと思います。地産地消にもつながり、その特産物も訳があって出荷できなかったものを使えば費用も安く抑えられるので、一石三鳥です。

このような事を本当に実施することができれば、国民の特に若者の選挙に対する関心が高まり、選挙に行きやすくなると思います。私が選挙権を持つまであと五年。この間に、自分から選挙のことについて知識を深めて自分の意見をしっかりと持ち、五年後の選挙に行きたいです。

投票率を上げるために選挙の現状

もえぎ野中学校 三年 浦野 真樹

今年七月十日、参議院議員通常選挙が行われた。僕も中学三年生となり、塾で公民の学習が始まったことで、国政や選挙に興味がわいてくるようになった。選挙があった翌日のニュースを見ていたとき、「過去四番目に低い投票率」と報道がされていた。また、今回の参院選だけに限らず、地方選挙でも「前回の投票より投票率が下がる」と同じような傾向が見られ、問題視されていた。

外国の投票率と日本を比べたときどうなるのだろうか。

日本は世界一三九位で、先進国の中では二番目に低い状況である。一方全体の中で最も高いのはベトナムで九九・二六パーセントのことだ。日本の参議院選挙の投票率五二・一六パーセントとベトナムを比べると、どれだけ日本の投票率が低いかわかるだろう。

だが、僕の両親は毎回欠かさず投票に行っている。もし、当日に何か予定が入っても、期日前投票をしている。なぜ毎回投票に行っているのか聞くと、「日本(地域)の将来にこうなってほしいという理想があるから。」「自分がいいと思う日本になってほしいから。」という答えが返ってきた。二人とも自分が持つ一票に思いがあるようだ。

総務省のデータによると、今回の参院選の神奈川県投票率は五四・五一パーセントで、約三五〇万人が棄権しているとのことだ。行かない理由としては、投票所に行くのが面倒くさいから、選挙に興味がないから、自分が投票したところで何も変わらないから、などという理由があるそうだ。この傾向は若い人に多く見られるという。

若者が選挙に行くメリットは、若者(これから活躍していく人)の意志を国(地方公共団体)に届けられること。そして、若いうちから政治に関心を持てることであると思う。

若者の投票率をあげるために、例えば実際に政治を行っていて、身近にいらっしやる市議会議員の方に、区内の学校で行政の仕事や選挙の大切さについて講演していただいたり、積極的に区民と関わったりしていただきたいと思う。そうすれば若い頃に政治に関心を持つ人が増え、選挙に行こう、投票しよう、とする人がどんどん増えていくと思う。

私は早く十八歳になって、選挙に参加したいです。理由は、小学校の時にした模擬選挙が楽しかったからです。その時選挙で決めたのは、給食のメニューでした。学校の給食のメニューを六年生が投票で決める事になり、私は立候補者としてメニューを決め、みんなに投票してもらえるようにポスターをつくり、呼びかけをしました。でも、思ったよりも簡単には進まず、ポスターに使っている写真がおいしそうに見えないと言われ、学年の前で演説したときは早口言葉や原稿ばかり見るなど、あまり上手くいきませんでした。結果も良くなく、立候補者の中ではだんとつ最下位でした。当然最下位だったのはショックでしたが、改良できる所はたくさんあったし、自分に票を入れてくれた人が数人でもいたことがうれしくて、またやりたいなと思いました。また、理由はもう一つあり、もう一つは中学校に入って、生徒会役員を決める選挙を体験したからです。小学校で体験した選挙よりも、もっと本格的で、生徒全員が投票することで役員を決めるということは、私たち全員で学校を作っているのだと実感した瞬間でした。とくに、演説で「私は体育祭で部活動リレーを作る。」と言い、次の年の体育祭で実現させている先輩の姿を見て、この人を選んで良かったと思いました。私は今、そんな先輩に憧れて、生徒会に立候補しています。私はこの人に票を入れてよかったです。思ってもえられないような役員になれるよう、演説、ポスター、呼びかけを頑張りたいです。私はこのような経験によって、投票するという事は市民、国民など全員で国をつくるための一歩だと感じましたし、たった一票でも進むきっかけになるため、どんな投票でも参加した方がいいと思います。青葉区は十八歳、十九歳の投票率が市内一位だと知り、私達が十八歳になっても、投票率を保てたらいいなと思うし、私自身も友達や家族と一緒に投票に行き、積極的に参加したいと思っています。投票は自分の考えや思いを伝えるための手段でもあると思うから、私は自分の意見をしっかりと持って、十八歳になって選挙権を持ったら投票しに行きたいです。

投票率をみんなで上げる

もえぎ野中学校 一年 馬原 陽翔

青葉区の投票率をみて最初の感想は、「あれ？五十パーセントも投票率あるし、思っていたほど低くないかも。横浜市全体より高いし。」という風な感じでした。

しかしインターネットで「投票率 世界」と調べてみて驚愕しました。「え？世界では投票率九十パーセント以上の国がたくさんあるのに青葉区の投票率は五十パーセントくらいしかないの？しかも日本全体の投票率も五十パーセントくらいで投票率ランキングも世界百五十位くらいなの？このままだとまずくない？」

と考えました。「なぜそんなに投票率が低いのだろう。」

と思いました。そこで考えたり調べたりしているうちにいくつかの理由が思い浮かびました。僕が考えたのは、「投票する会場に行くのが面倒くさい」「投票しに行く時間がない」「政治自体深いことを知らないから誰にまたはどの党に投票すれば分らない」の三つでした。

次に考えたのはこの三つの問題はどうすれば解決できるのかということですが、まず一つ目の問題である「投票する会場に行くのが面倒くさい」の解決策は投票所を増やしたりインターネットまたはアプリなどでの投票を可能にしたりすることが良いと思います。

二つ目の問題である「投票しに行く時間がない」の解決策は一つ目と同じインターネットの利用のほかにも会社員みんなで選挙に行く時間を設けるなどをする

と良いと思いました。三つ目の「政治自体深いことを知らないから誰にまたはどの党に投票すればいいか分からない」という事の解決策としては、義務教育機関である九年間にもう少し多くの時間、選挙に関することや、今の政治に関することを学べるようにすると良いと思いました。そうすることで若者が政治に対する興味を持てる社会、持ちやすくなる社会を作るべきだと思います。ほかにも選挙演説で使う言葉を簡単にすることで子供にも分かりやすくし、子供に興味を持たせることで、いざれ選挙権を持った時に投票に行く人の割合が増えるといいと思いました。自分の当選のためだけでなく、未来の投票率向上に貢献する選挙をできる人が増えたらいいなと思った。

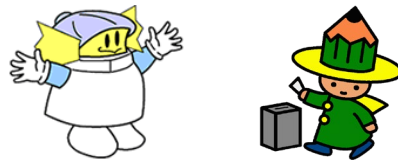
平成二十八年六月一九日に十八歳から選挙権が持てるようになりました。僕も六年後には有権者となります。選挙権を持てる年齢を引き下げるのは良いと思いますが、義務教育期間にもっと政治のこと、選挙のことを学ばなければ結局、投票率はあまり上がらないと思います。この作文を書くことで選挙の仕組みや歴史について知ることができました。今度、選挙や政治などの話を友達との会話の話題に挙げて選挙や政治について友達に伝えられたらいいなと思いました。

今回の参議院選挙で奈良県の候補者の応援に来た安倍晋三元首相が街頭演説中に銃で撃たれた。その二日後の投票結果は、見事にその候補者が当選した。開票が始まってすぐに当選のニュースが流れるほどの圧勝だった。この候補者は選挙戦が始まってすぐはかなり有利だと言われていたが、次第に他の候補者に詰め寄られてきた。だから元首相が応援に来ることになった。なのに圧勝だったことに僕は違和感を覚えた。

今でこそ旧統一教会に対するうらみによる犯行だと知られているが、犯行から投票日まで時間が短かったこともあり、当時はその犯行は民主主義に対する暴力だとされ、多くの政治家がそれに屈しないとコメントを発表したし、多くの人がそう思ったはずだ。それで投票に行くつもりの人や投票に行くという行動をとったのは理解できる。しかし、その投票先はその候補者の政治的思想や考え方、これまでの経歴や実績などで判断して投票するべきだとぼくは思う。もちろん、このことをきっかけにその候補者に投票した人を非難するつもりはないし、それも民意の一つだと思うが、その事件と投票は分けた方がいいと思う。事件がなかった時の結果はもはや分からないが、当時の様子を見てみると、冷静な判断ができていなかったのではないだろうか。

この事件の場合でなくても、政治のニュースを見ると、スキャンダルや本来の政治に関係ないことも執拗に報道されたり、政治家の発言が切り取られて報道されたりしている。政治的に重要なことならともかく、そうではないトピックについても長く言われたりしている。また、同じような意見ばかり繰り返し聞く。選挙が十八歳からできるようになって、ますます若者の意見が求められ、反映されることになっている。僕もあと数年で投票ができるようになる。本当は直接政治家の話を知りたい。僕もあと数年で投票ができるようになる。本当は直接いろんなところから情報を得て、自分で考えていかなければいけない。その情報は正しいのかどうか、偏っているのかを判断しなくてはならない。そのために普段からいろんな本を読んだり、自分とは違う意見の人の話にも耳を傾け、分からないことは調べたりして、自分自身の考えをかためていきたい。僕の祖父母は政治の話をよくしているし、父も公務員として政治に近い立場にいろいろな話をしてくれる。今後そういう話になった時は、ぼく自身の意見を表に出すことでぼくの未熟な部分を成熟させていきたい。

今回の事件のことは、多くのことを考えるきっかけになった。今後投票できるようにになったら、一時の感情や一つの情報、一つの考え方に振り回されたりすることのないように、日頃から考え発していくことが大切だと思う。



青葉区明るい選挙推進作文コンクール2022入賞作品集

<発行>

令和4年11月

青葉区明るい選挙推進協議会／青葉区選挙管理委員会／青葉区役所

〒225-0024

横浜市青葉区市ヶ尾町31番地4

TEL 045-978-2205~7

FAX 045-978-2410

☆入賞作品は、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページでも公開しています。

青葉区明るい選挙推進協議会

検索

主催 青葉区明るい選挙推進協議会・青葉区選挙管理委員会・青葉区役所

後援 横浜市教育委員会